

平成22年度 自己評価報告書

学校名 三重県立木本高等学校

(1) 学校経営の改革方針における個々の教育活動の評価結果

行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
<p>1 生徒一人ひとりの基本的な生活・学習習慣の確立を目指し、また、規範意識を高めます。 (教務) (1) 生徒の学習習慣の実態を把握するとともに、生徒に学習習慣に対する意識を持たせます。 (取組状況の指標：学校行事等の見直しを進めるとともに、適切な宿題を課す等により生徒の学校外における学習時間の増加に取り組みます。) (達成状況の指標：アンケートの結果を指標とする。) (生徒指導) (1) 健全な学校生活を送るため、校則について考えさせるとともに、生徒自身が校則を自ら考え、遵守できるよう指導します。 (取組状況の指標：頭髪服装等の身だしなみの指導や登下校交通安全指導等による交通安全ルール遵守の醸成に努める。) (達成状況の指標：指導件数と生徒の規範意識調査の結果を指標とする。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学期中間考査と期末考査を例年より1週間後に移動した。 ・ 長期休業中の宿題調べは行っている。 ・ 校則を守っている 72% (11月のアンケート調査) ・ 各定期考査前と長期休業明けの頭髪服装指導の実施。職員によるほぼ毎日の登校指導と授業間の校内巡視を実施。 ・ 指導件数は昨年度とほぼ横ばい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習アンケートや、長期休業中の宿題調べをもとにして、学習習慣の定着や学習時間の増加につながっているかを検証できるように教科と連携して取り組みをする必要がある。 ・ 成果がなかなか向上しない部分があるので、一層の全教職員の協力と継続的な取り組み、保護者との連携が必要である。 ・ 昨年度に引きつづき、教職員の登校指導によって地域からの苦情は減少しているが、交通ルールの厳守やマナー向上に努めていきたい。
<p>2 生徒一人ひとりの学力向上を目指して、授業改善に取り組みます。 (教科指導) (1) 本校卒業生として期待される学力を保障するため、具体的な授業改善に向けて、シラバスの効果的な活用、生徒による授業評価、授業研究を行います。 (取組状況の指標：年2回の授業公開週間や授業に対するアンケート調査の実施) (達成状況の指標：生徒の授業満足度65%以上) (2) 教職員一人ひとりの資質向上を図るとともに、教職員間の情報共有を積極的に行います。 (取組状況の指標：3回以上の校内研修会と少人数によるオフサイトミーティングを実施します。また、校外への研修会に一人1回以上参加します。) (達成状況の指標：実施回数等を指標とする。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業公開週間は2回(6月、11月)実施。 ・ 国語科、英語科において授業研究を行った。 ・ 生徒による授業評価については、学習アンケートを比較検討する。 ・ 生徒の授業満足度47% (どちらともいえない 41%) ・ 校内研修会を12回実施。(コーチング研修、カウンセリング研修、グループ別ミーティングなど) ・ 校外研修会への参加数。(1人当たり約4回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業公開は2回行ったが、参加人数が少なく、時期など工夫が必要である。 ・ 授業研究の継続と効果的な還元が課題である。 ・ 授業の満足度アンケートにおいて、具体的な項目を挙げてより詳しく検討を行う必要がある。 ・ 校内研修は回数が激増したが、その分放課後の時間が少なくなり、従来の仕事への負担が大きくなったのではないが。
<p>3 生徒一人ひとりの細やかな進路保障に努めます。 (教務) (1) 生徒の進路希望にかかわる講座については、少人数でも開講できるように務めます。 (取組状況の指標：生徒への講座説明を各教科と連携し適切に行うとともに、生徒の進路希望を的確に把握する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に進路にかかわるコースの授業については少人数でも開講した。(美術コース5人、音楽コース1人) ・ 2年総合学科の地学は選択希望が少数のため不開講となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合学科3年次の総合的な学習の時間において課題研究(2名希望)を開講したが、担当教員の決定や指導方法などの課題がある。

<p>(達成状況の指標：未開講講座の数を指標とする。)</p> <p>(進路指導部 & 学年団)</p> <p>(1) 進路指導部と各学年が連携して、段階的進路意識を持たせる。</p> <p>(取組状況の指標)</p> <p>1 学年：担任団と連携し、総合学習・産業社会と人間の時間などを利用して進路を意識させる。</p> <p>2 学年：進路講話やガイダンス等を通じ、より現実的で具体的な将来像を持たせる。また、外部主催のガイダンス等へも積極的に参加させる。</p> <p>3 学年：明確な進路目標を持たせ、早期から準備させるため、聞き取り調査や個別面談および面接指導を実施する。</p> <p>(達成状況の指標：アンケートの結果を指標とする。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに進路指導部より進路講話を行った。 2 学期、3 学期に外部講師による講演を実施。 ・1 学期に第 1 回進路別説明会を実施 6 月下旬、外部主催の進路相談会 7 月 大学・短大・専門学校 の 模 擬 授 業 1 1 月に外部講師による講演を実施 1 1 月に第 2 回進路別講話を実施 3 学期に面接指導を実施 ・4 月 進路別説明会 5 月 就職・看護希望者の進路面談 6 月 進路ガイダンス 全教員による面接指導 7 月 進路別説明会、校内模試 1 1 月に外部講師による講演を実施 随時 個別面談を行い個々に指導、面接練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・中途半端な進路希望や付け焼き刃の進路準備では対応できないため、1 年生からの系統的・継続的な指導が必要である。 2 年生の三学期からの取り組みを強化し、進路別説明会や第一回面接指導を実施した結果、進路意識の高揚や志望校決定の早期化を図れた。 ・今後も次の取り組みを充実していく必要がある。担任と連携した個別指導 教科による定期的進学補講 センター入試対策補講 ・就職・公務員希望者にとっては非常に厳しい年度であったが、事業所などとの連絡を密にすると同時に就職希望生徒への指導を強化した結果、ほぼ全員の内定が決まった。 ・大学進学希望者への指導においては、1 1 ~ 1 2 月に不安を抱える保護者のケアを行う必要がある。
<p>4 生徒・教職員一人ひとりの人権感覚を磨き、人権教育の推進に努めます。</p> <p>(人権・同和教育推進係 & 学年団)</p> <p>(1) さまざまな機会を通じて、人権教育プログラムにもとづいて人権感覚を磨きます。</p> <p>(取組状況の指標：人権 L H R、校内人権フェスティバルや校内のつどい(ロストラム)等により、人権感覚を磨くとともに人権を尊重する意欲や態度を育てます。)</p> <p>1 学年：人の気持ちを思いやり行動することの大切さを学び、仲間作りのきっかけを作る。</p> <p>2 学年：人権侵害の実態を見抜き、人権侵害を絶対に許さない人権感覚を養う。</p> <p>3 学年：身近な所にある就職差別を改めて学び、統一応募用紙改定の意味を意識するとともに、社会へ出て人権問題に遭遇した時に主体的に行動できる人権感覚を養う。</p> <p>(達成状況の指標：アンケートの結果を指標とする。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区別交流会でロストラムが人権劇を演じた。 ・人権 L H R を実施。 1 学年：2 学期 2 学年：2 学期 3 学年：1 学期 ・アンケートでは、各学年とも人権意識の向上が見られた。特に、3 年生では就職などについての履歴書に対し、その意味を知ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間確保との兼ね合いもあるが、人権学習の時間の一層の確保とより有意義な内容の実施が課題である。 ・生徒中心の人権学習会が校外で主催されることが多くなっており、より一層の生徒への周知と参加を促すことが必要である。 ・アンケートでは人権意識の向上がみられたものの、日常の人権意識の向上が図れているのかが疑問である。他者への思いやりに欠ける行動や自己中心的行動が見られることもあり、人権 L H R だけではなく日常の問いかけや話も大切に、しっかりと取り組まなければならない。 ・人権同和教育については具体的な内容が題材だったので、取り組みやすく意識の向上にもつながった。
<p>5 生徒一人ひとりの豊かな心の育成や体力・健康増進のため、部活動の活性化に努めます。</p> <p>(生徒指導)</p> <p>(1) 部活動の入部率を 8 0 % 以上を目指し、生徒の地区大会～全国大会への参加率の向上に努めます。また部活動を通して集団活動や自立心など自己意識の向上をめざします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入部率は約 8 0 % (4 月)、1 1 月のアンケートでは 8 3 % (1 ・ 2 年のみ)。引きつづき成績の向上に努めていく必要がある。 ・吹奏楽部や J R C などのクラブ活動を通じ、奉仕 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の入部率は高く、活発に活動し好成績を残しているが、地域の特性から生徒・保護者・教職員の負担がかなり大きくなっており、実情を理解してもらい早急な

<p>(取組状況の指標：定期演奏会や作品展の実施や、ボランティア活動を通じての地域行事や奉仕活動への参加) (達成状況の指標：生徒の部活動意識調査の結果を指標とする。)</p>	<p>活動に参加し地域社会との交流を図っている。また、全生徒参加の奉仕活動を7月・3月に実施。</p>	<p>手立てが必要である。 ・ラグビー部の全国大会出場などにより、あらためて地域社会との関係を再認識できた。</p>
<p>本年度の行動計画をより成果のあるものとするために、情報の発信・収集に努めます。 (取組状況の指標：木高だより、学年通信などのたよりやきずなネット、ホームページを用いて情報提供に努めるとともに、保護者や生徒へのアンケートや家庭訪問、懇談会をなど適宜実施します。) (達成状況の指標：アンケートの結果を指標とする。)</p>	<p>・木高だより(校内向け)を月1回発行。 今年度より、木高だより(中学生版)を近隣の全中学校へ月1回配布している。 ・学年通信の発行。 1学年(5回) 2学年(7回)</p>	<p>・木高だより掲載記事の収集・提供等が必要がある。</p>

2) 組織の状態の評価結果

アセスメント診断から明らかになった状況	
強み	<p>・「木高だより(校内向け、中学生版)」の発信、携帯メールでの緊急連絡網「きずなネット」の導入、「ホームページ委員会」の発足等により、迅速かつ多様な情報発信体制が確立している。 ・教職員個々人が、教科指導・クラブ指導・分掌運営・情報管理等に対する意識を高く持ち、意欲的に取り組んでいる。 ・各種アンケートや家庭訪問等により、学習者等の要望や満足度のきめ細やかな把握に努めている。 ・個人情報保護の徹底とそのための高い意識の確立がなされている。 ・計画的に校内研修が実施されている。 ・教科・分掌内でのコミュニケーションと知識・技術等の伝達と育成の取り組みが行われている。</p>
弱み	<p>・「目指す学校像」の具体化とそのための共通意識、意思統一が不足している。また、「目指す学校像」実現のためのビジョンと諸活動の整合性を図る必要がある。 ・組織としての活動がやや力不足であり、入学から卒業までの3年間を見据えた継続的・系統的な指導体制が弱い。個々の教職員の力量に頼りすぎている。 ・学習者の要望等を把握し、それを教育改善に具体的に活かす取り組みや、その改善活動を理解してもらうための取組が十分とはいえない。 ・幅広い層の生徒の進路実現に向けて対応できる体制作りの環境が弱い。 ・講師等も含めた全職員間の日常的な情報共有が不足している。</p>

3) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<p>・基本的な生活・学習習慣の指導にあたっては、社会の厳しさをしっかりと指導するという視点を持って指導して欲しい。 ・授業公開の取組において、「学校が何故授業を公開するのか、その意味をしっかりと説明すること」や「何を公開し、どのような視点から見て欲しいかなどを分かり易く提示すること」が大切である。 ・進路指導においては、厳しいなかよくやっており、進路状況の変化などがよく理解できた。</p>

4) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組	
<p>【目指す学校像と個々の具体的取組の一層の運動】 「目指す学校像」をより具体的にし、教職員全体の共通認識とする。そのための中心的役割を担う組織の立ち上げを検討する。学校運営の諸活動を「目指す学校像」の実現につながるものとする。そのために各部・学年、教科等でその実現につながる具体的な方策を検討する。 【地域を知る学習活動の展開】 地域から信頼される学校として「地元、地域を知るための学習活動」をどのように実践するかを検討する。</p>	

【少人数の話し合いの場の継続】

既存の会議や委員会制度などをはなれた少人数での話し合いの場を継続し、その場でも出された意見の実現を図る。

【総合学科・普通科の在り方の継続的な検討】

総合学科、普通科のよりよい在り方を継続して検討する。